

あるある

—身近なエピソードから学ぶ—

あおもり親楽プログラム

プログラム

プログラム
1

形だけのあいさつでいいの？ ～あいさつの意味を考える～

あるある
エピソード

コウジ君のお父さんは、塾への送迎のため、部活が終わる時間に息子と友達のケンタ君を迎えに中学校へ行きました。体育館からは、子どもたちのかけ声とバスケットボールの床を弾む音が聞こえてきます。

お父さんが、体育館の入り口に立つと、一瞬静まり、部員が全員振り向き「お疲れ様です。」という元気な声がお父さんは、すがすがしい気持ちになりました。

お父さんは、二人を車に乗せ、塾に着きました。

「……」無言で二人は降りました。その時、近所の人、「こんばんは。」と二人に声をかけました。すると、二人はボソボソと「こんばんは。」

お父さんは、複雑な気持ちになりました。



ワーク1 お父さんの気持ちを考えてみましょう。

ワーク2 子どもたちやあなた（親）は、家庭や地域であいさつをしていますか。

ワーク3 子どもにあいさつをすることの意味を考えさせるには、どのようにしたらよいか話し合みましょう。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
2

時間を有効に使う ～生活リズムをコントロールする～

あるある
エピソード

「コウタ、いつまで寝てるの！学校に遅れるわよ！！」と毎朝声をかけるのが、お母さんの日課です。

中学生のコウタ君は、部活も勉強も、毎日頑張っていますが、大好きなゲームも夜遅くまで……。これでは、朝なかなか起きられません。

お母さんは、「コウタ、大丈夫なの。」と心配そうに声をかけますが、いっこうに変わりません。

「朝ごはんを食べなさい。」と言っても、食欲がなく、飲み物を口にするだけです。

「いってらっしゃい。」ポーッとするコウタ君の後ろ姿を見ながら、お母さんはため息を一つつきました。



ワーク1 エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。

(1) あなたのお子さんの様子を振り返ってみましょう。

(2) ため息をついたお母さんの気持ちを考えてみましょう。

ワーク2 生活リズムを整えることの意味を話し合みましょう。

ワーク3 子どもが生活リズムをコントロールするために、どのように接したらよいでしょう。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
3

思春期の子どもとどう関わる？ ～親子のつながり～

あるある
エピソード

中学生のカズヤ君は、2年生の夏休みが終わり、2学期に入った頃から口数が減り、家族への態度も反抗的になってきました。お母さんは、そんなカズヤ君の様子ที่だんだん心配になってきました。

ある日、いつもより遅く学校から帰ってきたカズヤ君は、何も言わずに自分の部屋に入ってしまった。

母：「カズヤ、どうしたの？ ご飯食べないの。」

カズヤ：「・・・。」

母：「ねえ、カズヤってば。」

カズヤ：「うるさいなあ。いいからほっといてよ。」

「ドン！」部屋の中から、ドアに何か物がぶつかる音が聞こえました。

その日の夜、お母さんは、カズヤ君の様子をお父さんに話し、どうしたらよいか相談しました。



ワーク1 その日の夜、カズヤ君の両親はどんな話をしたのでしょうか。

ワーク2 子どもが思春期を迎える頃、心情や行動にどんな変化が見られるか、話し合ってみましょう。

ワーク3 思春期を迎えた子どもとの接し方で気をつけていることは何か話し合ってみましょう。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
4

どうせ私なんか…
～自分の良いところに気づかせる～

エピソード

あるある

ムツミさんのお母さんには、気になることがあります。
中学2年生のムツミさんが、最近、なんだか元気がありません。何を聞いても浮かない返事。家族との会話も減ってきました。
近所のスーパーで、同級生のアキさんのお母さんに会った時、「最近、アキちゃん、ムツミのこと、なんか言ってない？」と聞いてみましたが、「『部活頑張ってる』って言っていたけど、どうかしたの？」と言われました。
ある日、心配したお母さんは、「ムツミ、近頃元気ないね。何かあったの？」と尋ねると、「どうせ私なんか…」という言葉が返ってきました。



ワーク1 「どうせ私なんか…」と言ったムツミさんの気持ちを考えてみましょう。

ワーク2 あなたが中学生（高校生）の頃に、親や先生、地域の人などから言われて嬉しかった言葉は何ですか。

ワーク3 子どもに自分の良いところを気づかせるために、どのように接したらよいでしょう。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
5

家族みんなで協力 ～家庭での「ありがとう」を大切に～

あるある
エピソード

私には、高校2年生と中学2年生の息子がいます。息子たちは、野球部に所属していて、毎日、洗濯物の山。いつもは、仕事が終わると腹ペコの子どもたちのために急いで帰りますが、今日は仕事が長引き、帰りが遅くなりそうです。

私：「もしもし、今日、帰りが遅くなりそうなの。」

夫：「わかった。大丈夫だよ。」

私：「ありがとう。じゃ、よろしくね。」

家に帰ると夫と息子たちは、楽しそうにご飯を食べていました。

夫：「おかえり。」

高2：「お風呂入れるよ。」

中2：「今日は、ぼくがカレーを作ってみたから食べて。」

私：「
」



ワーク1 「
」に入るお母さんの言葉について話し合みましょう。

ワーク2 家族の協力で嬉しかったことについて話し合みましょう。

ワーク3 家族みんなで協力し合うためには、どんなことが必要か話し合ってみましょう。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
6

知ってますか？スマホの危険性 ～使い方を考える～

あるある
エピソード

今年、娘が高校に入学したタイミングでスマホを持たせてから、半年が過ぎました。始めはあまり心配していなかったのですが、最近は、暇さえあればスマホをいじっています。お母さんは、なんだか不安になってきました。

母：「ねえ、いつもそんなにスマホで何を見ているの？」

娘：「普通にネット見たり、それから自分で撮った画像をアップしたりとか。」

母：「それって、知らない人もその画像を見てるんでしょ。大丈夫なの？」

娘：「全然大丈夫。友だちだってみんな普通にやってるよ。」

母：「だからって、いろんな画像を出すのは危険じゃない？」

娘：「わかってるって。ちゃんと気をつけるから。」



ワーク1 子どもは学校の授業や家庭で、スマートフォンやタブレット等のICT機器をどんなことに使っているか話し合ってみましょう。

ワーク2 インターネットやSNS等に関わるトラブルや危険性について、知っていることを話し合みましょう。

ワーク3 子どもがルールを守って安全にスマートフォンを使用するために、できることは何ですか。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
7

いつまでも持ち続けたい思いやりの心
～みんなの笑顔のために～

エピソード

あるある

夕ご飯を食べ終わり、お父さんがテレビをみていると、おじいさんから電話がかかってきました。

祖父：「おう、わしだ。今日は本当に助かったよ。タツヤによろしく言っておいてくれよ。」

父：「え、何の話？」

祖父：「聞いてないのか？タツヤが学校帰りに寄ってくれて、雪かきしてくれたんだよ。」

父：「あいつ、そんなことしてたのか。ぜんぜん知らなかったよ。」

祖父：「とにかく、おまえからもありがとうって言っておいてくれよ。じゃあな。」

父：「あ、うん、わかった。それじゃあ。」

お父さんは、電話が終わるとすぐにタツヤ君の部屋へ向かいました。



ワーク1 電話が終わった後、お父さんはタツヤ君とどんな話をしたのでしょうか。

ワーク2 普段の生活の中で、子どもの思いやりを感じた行動について紹介し合いましょう。

ワーク3 子どもが思いやりのある行動をとるために、普段からどんなことを伝えていきますか。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
8

地域が育ててくれる
～体験から学ぶ～

あるある
エピソード

中学生のマコト君は、勉強や部活動はあまり得意ではなく、学校では、目立つ方ではありません。夏休みに入り、マコト君は、スタッフが足りないということを知り、子ども会の夏祭りを手伝うことにしました。

「俺、夏祭りに行ってくる。」

出かけようとするマコト君に、お父さんは

「またかあ。もう中学生なんだから、勉強しなくて大丈夫なのか。」

と声をかけました。お父さんとしては、もっと勉強に力を入れて欲しかったのです。

数日が経ち、お父さんは子ども会の世話役に声をかけられました。

「いやあ、助かりましたよ。マコト君は本当によく働く子だ。それに、小学生をよく引っ張ってくれたよ。学校でもリーダーかい？来年も、よろしく頼むよ。」

お父さんは、ハッとしました。

家に帰ると、黙々と机に向かう息子の姿がありました。

「お帰り、お父さん。」

息子の力強い声に、お父さんは……。



ワーク1 机に向かっている息子に、どんな言葉をかけたいですか。

ワーク2 子どもにはどんな力を身につけてほしいですか。

ワーク3 子どもの成長にはどんな体験が必要だと思いますか。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
9

地域の大人としてできること ～みんなで見守る子どもの成長～

あるある
エピソード

ある平日のお昼頃、PTAの会議が終わった後の帰り道、私がミナさんのお母さんと近所の公園の前を通りかかると、顔見知りの高校生の男の子3人が集まって話をしています。私たちは、学校はどうしたのか気になり、声をかけてよいものかどうか迷いましたが、思い切って声をかけてみました。

私 : 「こんにちは。」

高校生 : 「こんにちは。」

私 : 「今日は学校お休み？」

高校生 : 「はい、文化祭の代休なんです。」

ミナさんの母 : 「ああ、そうだったの。文化祭は、楽しかった？」

高校生 : 「はい、楽しかったです。」

私 : 「今日は、天気もいいから休みでよかったね。」

高校生 : 「はい。」

私 : 「それじゃね。」



ワーク1 地域にいる子どもたちに普段どのように接していますか。

ワーク2 子どもたち（自分の子ども以外も含む）にはどのように育ててほしいですか。

ワーク3 どのようなことに気をつけて子どもたちに接していきたいですか。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
10

悩んで当たり前、大切な進路 ～親子で考える子どもの将来～

あるある
エピソード

中学3年生になったユリさんは、最近あまり元気がありません。心配になったお父さんとお母さんは、夕ご飯の時に思い切ってユリさんに聞いてみることにしました。

父：「ユリ、何か悩みごとでもあるの？元気ないよ。」

ユリ：「んー。実は、友だちと受験の話になると、不安になってきて。将来の夢がはっきりしているわけでもないし、今だってとりあえず勉強しているって感じで。」

母：「そうだよね。不安だよね。わかるよ、ユリの気持ち。」

父：「
」



ワーク1 「
」に入るお父さんの言葉について話し合しましょう。

ワーク2 子どもが進路や将来について悩んでいたら、どのように接しますか。

ワーク3 子どもが前向きな気持ちで生活を送るためには、何ができるか話し合ってみましょう。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

プログラム
11

わが家の1か条を決めよう ～できることから始める～

あおもり家庭教育10か条



あおもり家庭教育10か条は、平成23年度に青森県教育委員会が提唱したものです。
残りの一つは「わが家の1か条を決めよう」です。

ワーク1 あなたの家には子どもとの決まりはありますか。

ワーク2 あなたが子育てで大切にしていることは何ですか。

ワーク3 新たにどんな「わが家の1か条」を加えますか。

ふりかえり どんなことに気づきましたか。